



## やっぱり本はおもしろい

ムーミンの生みの親トーベ・ヤンソンさんの生誕100周年を記念して今月から横浜の「そごう美術館」で回顧展が始まったそうです。来年にかけて全国を巡るようですが、本の方もムーミンの新装版が続々登場しているようです。本を紹介する雑誌「ダ・ヴィンチ」11月号にも「大人になるためのムーミン特集」が載っています。この塾はヤンソンさんが亡くなったのと同じ年同じ月2001年6月にできました。その時から本棚を塾の間仕切り代わりにして、塾生には自由に本を読んだり借りたりできるようにしてきましたが、今月ついにテキスト類を除いての蔵書が1000冊を超えました。「この前借りたのがおもしろかったから、また塾長おススメの本を貸してよ。」と言ってくる塾生もいるのですが、そこが思案のしどころ。最初に貸すときは、その子の興味のありそうな分野や、活字慣れしているかどうかなどを考えて読書のきっかけづくりになればと選びます。でも次からは自分でおもしろい本探しができたらいいなとも思います。例えばムーミンシリーズが気に入ったとしたら、ヤンソンさんが自分の姪のソフィアがフィンランドの小さな島で過ごした夏を描いた「少女ソフィアの夏」という本を読んでみてはどうでしょう。ムーミンの世界がどこから来ているのかの手がかりになるかもしれません。読書週間の今、自分の気に入った本を偶然に友達も読んでいたなんてことがあればまた楽しいかもしれません。

自分の読書体験をつづった「れもん、よむもん！」というコミックエッセイに「本を読むって、ある意味『自分よりずっと物事を深く考えている先達の頭の中をのぞき見る行為』っていうか、それってめっちゃお得でスゲーことじゃないですか」というセリフがあります。この時期この塾では看護師をめざす高3男子、空港職員をめざす高2女子など、それぞれが進みたい道の第1歩の大学入試に向けて勉強に励んでいます。彼ら彼女らがちょっと勉強に疲れた時、ちょっと道に迷っている時に、ただ紙に文字が印刷してあるそれだけのものに少しだけ救われる瞬間がきっとあると思うのです。